

## 第30回 圧力容器規格委員会 議事録

I. 日時： 令和元年7月22日（月） 14：00～16：00

II. 場所： 高圧ガス保安協会 第1、第2会議室

III. 出席者（順不同、敬称略）：

委員長：小林

副委員長：辻

委員：鴻巣、坂倉、大江、寺田、後藤、佐藤、井川、酒井、永井、矢野、阿部、  
土居、中村

アソシエート：－

K H K：福田、加藤、富岡、磯村、梶山、小池

IV. 議題：

- (1) 超高压ガス設備に関する基準について
- (2) 安全係数2.4の特定設備に関する基準の審議
- (3) 技術基準整備計画（3カ年計画）の審議
- (4) 技術基準策定手順書の審議
- (5) その他（ASME Delegate 活動報告）

V. 配布資料：

- 30資料1 圧力容器規格委員会 委員名簿（令和元年7月1日）
- 30資料2 第29回 圧力容器規格委員会 議事録
- 30資料3 KHKS0220の改正に係る検討状況の報告の概要
- 30資料4 疲労に係る規定の見直しについて
- 30資料5 高圧水素に係る規定等の見直しについて
- 30資料6 安全係数2.4の特定設備に関する基準 KHKS0224の見直しについて
- 30資料7 技術基準整備3カ年計画（2019年度～2021年度計画）（案）  
参考資料1 技術基準整備3カ年計画（平成30～平成32年度計画）
- 30資料8 圧力容器規格委員会の技術基準策定手順書の改正について
- 30資料9 ASME Delegate 活動報告
- 参考資料1 KHKS0220の本文及び附属書V 抜粋

## VI. 議事概要：

出席人数を確認して委員会の成立条件を満足することを確認した後、以下に示す議題の審議を行った。

### 1. 議題（1）超高压ガス設備に関する基準について

#### 1-1 KHKS0220 の改正に係る検討状況の報告の概要

30資料3に基づき、事務局よりKHKS0220の改正に係る検討状況の概要について説明を行った。これについて、特段の意見はなかった。

#### 1-2 疲労に係る規定の見直し

30資料4に基づき、事務局より疲労に係る規定の見直しについて説明を行った。これについて、以下の意見等があった。

- 1) 標準偏差を設計者が設定することについて、そのガイドラインは示されるか。  
→ 標準偏差の根拠も含めて、解説に記載する予定である。

#### 1-3 高压水素に係る規定等の見直しについて

30資料5に基づき、事務局より高压水素に係る規定等の見直しについて説明を行った。これについて、以下の意見等があった。

- 1) オーステナイト系ステンレス鋼は水素の影響を受けない材料ではなく、水素の影響を受けにくい材料では。  
→ オーステナイト系ステンレス鋼のうち、SSRT特性を要求しないものを、水素の影響を受けない材料と表現している。
- 2) ライジングロード法のデビエーションポイントの判定において、水素の影響の他に塑性変形の影響を考慮するべきである。
- 3) ASME Section VIII Division 3のKD-10に規定の一定荷重法及び一定変位法は適用できないのか。  
→ 水素誘起割れの評価にはライジングロード法が適切であるため、一定荷重法及び一定変位法は除いている。なお、ライジングロード法による評価については、ASME Code Committeeにも提言することを考えている。

以上の結果、疲労及び高压水素に係る規定等の見直しは、事務局から説明した方針に基づき検討を進めていくことについて了承を得た。

### 2. 議題（2）安全係数2.4の特定設備に関する基準の審議

30資料6に基づき、事務局より安全係数2.4の特定設備に関する基準KHKS0224の見直しについて説明を行った。

これについて、特段の意見はなく、安全係数2.4の特定設備に関する基準KHKS0224の見直しに係る以下の事項について、出席委員全員の賛成により決議された。

- ・書面投票（投票期間15日）及びパブリックコメント（実施期間30日）の実施

### 3. 議題（3）技術基準整備計画（3カ年計画）の審議

30資料7に基づき、事務局より技術基準整備計画（3カ年計画）について説明を行った。これについて、以下の意見等があった。

- 1) 現在、KHKS0220の見直しについて議論しているが、見直し期限は2021年12月でよいか。
- 見直し期限は2021年12月であるが、前倒しで見直しを進めている。

以上の結果、技術基準整備計画（3カ年計画）は、出席委員全員の賛成により決議された。

#### 4. 議題（4）技術基準策定手順書の審議

30資料8に基づき、事務局より圧力容器規格委員会の技術基準策定手順書の改正について説明を行った。これについて、以下の意見等があった。

- 1) 技術基準策定手順書はKHKウェブサイトから確認できるか。
- KHKウェブサイトからダウンロードできる。
- 2) 書面投票において、第15条（1）に容易に変更することができない措置を講じた電子媒体による返信とあるが、現行の方法は問題ないか。
- 第15条（2）の専用ウェブサイトの投票システムを使用しているため、問題ない。

以上の結果、圧力容器規格委員会の技術基準策定手順書の改正について、出席委員全員の賛成により決議された。

#### 5. 議題（5）その他

##### 5-1 ASME Delegate 活動報告

30資料9に基づき、事務局よりASME Delegate 活動報告として、ASME Section VIIIの改正動向について説明を行った。これについて、以下の意見等があった。

- 1) Material Property Database を利用できるのはいつ頃か。
- 未定である。
- 2) 日本でも、圧力容器の材料の整理やクリープ領域の外圧チャートの検討が必要と考える。

##### 5-2 次回委員会

次回委員会は、次の日程で調整し、事務局から連絡することとなった。

- ① 2019年12月25日
- ② 2019年12月24日
- ③ 2020年1月10日

以上